

お話をよく聞く子どもを育てる

絵本やものがたりに静かに耳を傾け、心を寄せることができる。



我が園の保育士に、「お話をよく聞く子どもを育てる」という題材で、保育資料に執筆することになりましたが、何かエピソードや心当たりとなる事はありませんかと尋ねたところ、次のような事例を戴きました。

1 例目として、

今年1月の「心の日・報恩講」で5歳児のA君は、園長先生から報恩講の意味などを真剣に聞いていました。「心の日」が終わり解散後A君から話しかけて来ました。「僕のおじいちゃんも死んじゃったけど、お空から見えてくれるかな」と、おじいちゃんのことを想う様子です。報恩講が終わり、部屋に戻ってから窓から空を眺めたり、友だちとおじいちゃん、おばあちゃんの話をしたりしてお話に耳を傾け、心を寄せている姿が見られました。

2 例目として、

7月の心の日で園長先生が読んだ紙芝居の「落っこちたライオン」が子どもたちに大人気でした。紙芝居が始まると顔を前に乗り出して見聞きしていました。園長先生から一年に何度か繰り返し読み聞かせたことで、主人公のライオンの王様の気持ち、周りにいる家来のライオンや助けくれたキツネはどうしてそのような行動をしたのかなど、子どもたちなりに考えて話し合い、誰に対しても優しい気持ちで関わることの大切さに気付き始めている姿が見られました。

3 例目として、

「朝の集い」で毎朝仏様に合掌をし「ほとけさまの歌」を歌っています。子どもたちの中で、仏様の存在が身近になり、畑でナスビやキュウリを収穫したときなどは、「のの様にお供えしようや、もちつき会などの園行事などがあると」のの様にお餅あげたい」「のの様がみんなのこと見てるよ」など仏様を身近に感じている姿が多く見られます。

特に、「花まつり」では、お釈迦様の誕生ということもあり、花まつりのポスターを見て手を合わせたり、お歌を歌ったりするなどの敬う心が育ってきています。

このような子どもたちの姿を先生方が見つけることを園長として大変嬉しく思います。これからも子どもたちや先生方の気づきが、保護者の方に広まることを願っています。

まことの保育の願い

合掌

柳溪暁秀